

作成：田中重人（講師） <tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp>

言語科学特論 II

第2回「会話分析の練習」

トランスクリプトの読みかた

(教科書 pp. xii-xiv)

会話分析でつかわれる記号法にはさまざまな流派がある。

詳しくは次を参照：

サーサス, G (1998) 『会話分析の手法』(北澤裕・小松栄一訳) マルジュ社。

会話分析の練習

西阪仰「会話分析の練習」(教科書第3章)

記号など：

- ・データ・ソースの示しかた
- ・行番号
- ・注意を促すための記号(→、ゴシック体など)

鍵となる概念：

断片

チャンネル (p. 78)

不確定的・不確定性 (p. 81)

規則 (p. 81)

定式 (p. 81)

有標 (marked) (p. 83)

標識 (mark) (p.83)

公然化 (p. 84)

デザイン (p. 80)/受け手に合わせたデザイン (p. 81)

修復 (repair) (p. 87)

発言順番 (p. 93) (turn →p. 3)

「あの」の意味

規則 (1), (1a), (2) はどう違うか?

根拠となるのは?

- ・断片 (6) (7) ……電話の取り次ぎ依頼
- ・断片 (14) (15) (16) (16a) ……話題の切り出し
- ・断片 (12) (13) (16b) ……デザインの適切性の確認に成功
- ・断片 (17) (18) ……デザインの適切性の確認に失敗

その他

「あ」

「はいはい」